

# 平成29年度第2回「まちかどコメンテーター」アンケート調査結果

## まちかどコメンテーターの概要

### (1) まちかどコメンテーターとは

市民の皆様「まちかどコメンテーター」になってもらい、その方々から市民目線の意見・提言を聴取するとともに、市民のニーズを把握し、市政運営の参考とさせていただくものです。

また、アンケートを通じて、市民の皆様の市政への関心・興味を深めることも目的としています。

### (2) まちかどコメンテーターの選定方法

住民基本台帳から無作為抽出した市民2,500人にまちかどコメンテーターへの就任を依頼し承諾いただいた方と、一般公募に応募していただいた方から構成されています。

### (3) 任期

平成29年7月1日～平成31年6月30日

### (4) 人数

204人（男性97人、女性107人）

### (5) 所管課

市民局 市民文化部 市民協働課

## 今回のアンケートの概要

テーマ (担当課)	桜島・錦江湾ジオパークについて	(観光交流局 ジオパーク推進室)
	これからの消防団の地域における役割について	(消防局 警防課)
	健康づくりパートナーの認知度について	(健康福祉局 保健政策課)
調査期間	平成29年10月5日～10月31日	
送付数	204人	
回答率	80.9% (165人)	

(注) 回答数については、決められた数の選択肢を選択する設問において、決められた数より多く回答している場合は、「決められた数の回答数÷実際の回答数」として集計しています。

少数点第2位以下は四捨五入します。

(注) 構成比は小数点第2位以下を四捨五入して表示しているため、合計が合わない場合があります。

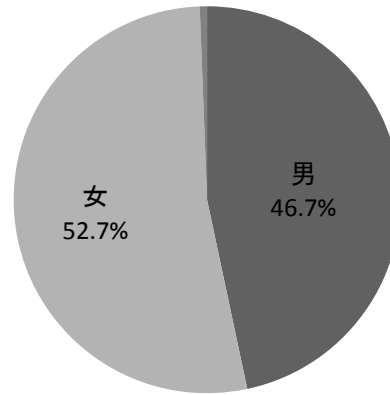
(注) 複数回答可の質問の構成比の合計は100%を超えることがあります。

(注) 自由記入の回答は、主な意見のみを記載しています。全文は市ホームページで公開しています。

## 回答者の構成

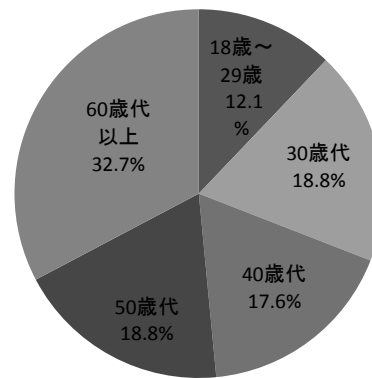
問1. 性別を選択してください。

選択肢	回答数	構成比
男	77	46.7%
女	87	52.7%
無回答	1	0.6%
合計	165	100.0%



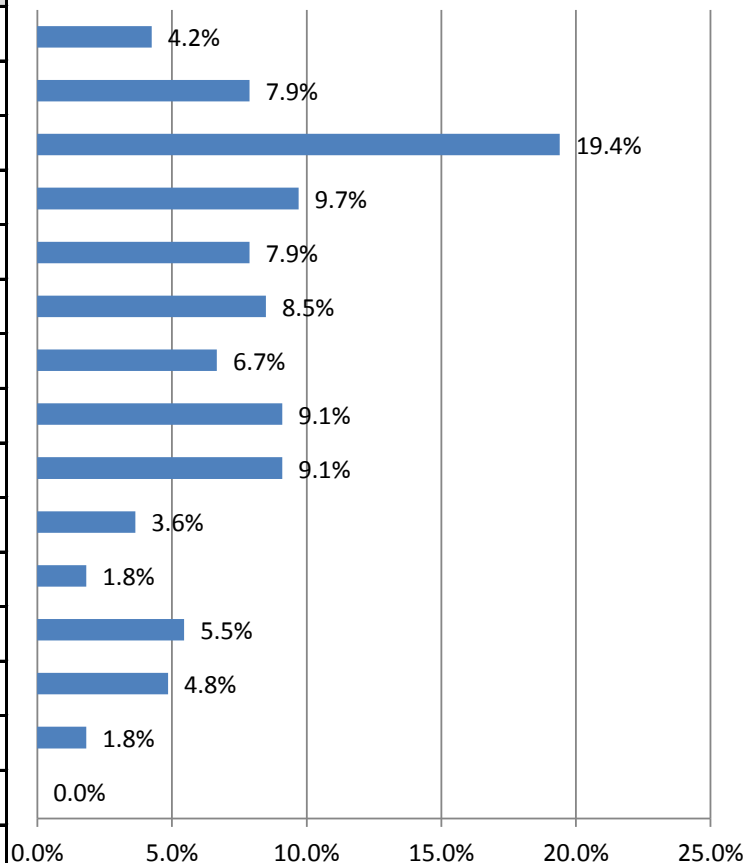
問2. 年代を選択してください。

選択肢	回答数	構成比
18歳～29歳	20	12.1%
30歳代	31	18.8%
40歳代	29	17.6%
50歳代	31	18.8%
60歳代以上	54	32.7%
無回答	0	0.0%
合計	165	100.0%



問3. 町名を記入してください。※ご記入いただいた町名を元に集計しています。

地域	回答数	構成比
中央地区	7	4.2%
上町地区	13	7.9%
鴨池地区	32	19.4%
城西地区	16	9.7%
武・田上地区	13	7.9%
谷山北部地区	14	8.5%
谷山地区	11	6.7%
伊敷地域	15	9.1%
吉野地域	15	9.1%
桜島地域	6	3.6%
吉田地域	3	1.8%
喜入地域	9	5.5%
松元地域	8	4.8%
郡山地域	3	1.8%
不明	0	0.0%
合計	165	100.0%



## 桜島・錦江湾ジオパークについて

### 【調査の目的】

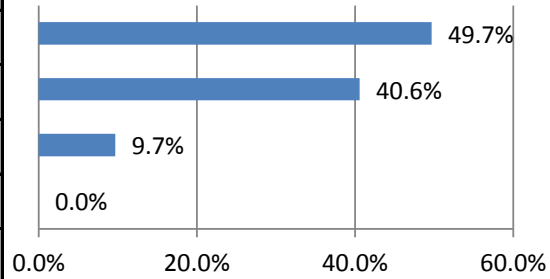
「ジオ」とは、地球や大地という意味、「ジオパーク」とは、ツアーや体験プログラムを通して、地球や大地の素晴らしさを体験できる公園（場所）のことであり、貴重な自然資源を保全・保護しながら、観光や地域振興、防災、教育など様々な活動を展開しています。桜島・錦江湾地域は、平成25年に日本ジオパークに認定されました。

本市では、この「桜島・錦江湾ジオパーク」の推進に取り組んでいますが、市民の皆さんのジオパークの認知度などを把握し、今後の事業推進の参考とするために、アンケートを実施しました。

### 【調査結果】

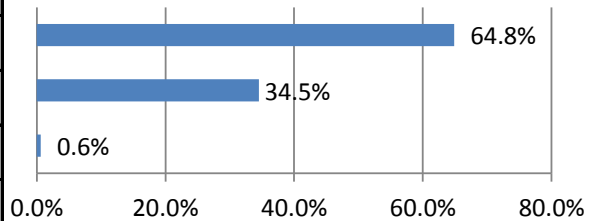
問4：「ジオパーク」という言葉を知っていますか。

選択肢	回答数	構成比
知っている	82	49.7%
聞いた（見た）ことはある	67	40.6%
知らない	16	9.7%
無回答	0	0.0%
合計	165	100.0%



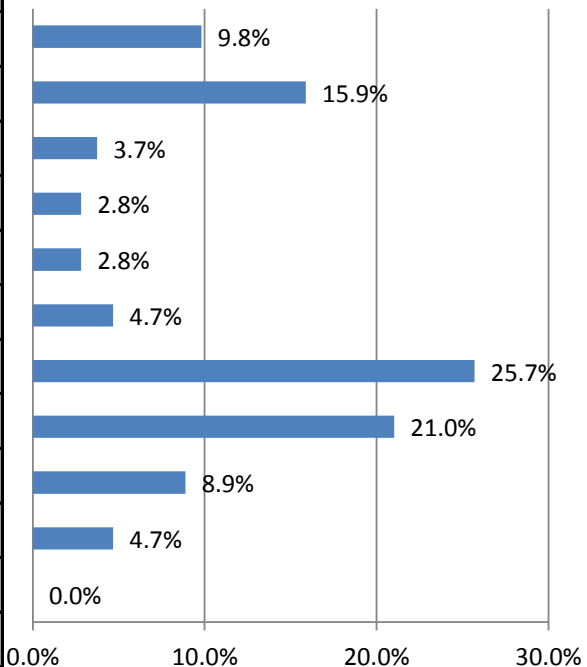
問5：桜島・錦江湾地域が日本ジオパークに認定されていることを知っていますか。

選択肢	回答数	構成比
知っている	107	64.8%
知らない	57	34.5%
無回答	1	0.6%
合計	165	100.0%



問6：「桜島・錦江湾ジオパーク」について知ったきっかけは何ですか。

選択肢	回答数	構成比
パンフレット（ガイドマップ等）	10.5	9.8%
のぼりや横断幕	17	15.9%
看板や説明板	4	3.7%
ホームページ	3	2.8%
SNS（フェイスブックやツイッター、インスタグラム等）	3	2.8%
ガイドツアー、イベント、講演、その他の催し等	5	4.7%
テレビ・ラジオ	27.5	25.7%
新聞	22.5	21.0%
市民のひろば	9.5	8.9%
その他	5	4.7%
無回答	0	0.0%
合計	107	100.0%

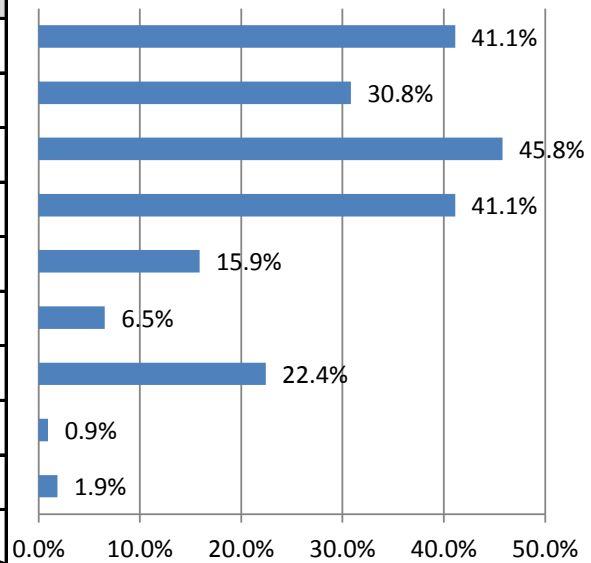


問6：その他の主な意見

- ・ジオパークの写真コンクール、市の職員のポロシャツ、一般土木のコンサルタント業、親 など

問7：「桜島・錦江湾ジオパーク」についてどんなことを知っていますか。（複数回答可）  
（N=107人）

選択肢	回答数	構成比
世界ジオパークの認定を目指していること	44	41.1%
ロゴマーク	33	30.8%
「火山と人と自然のつながり」というテーマやストーリーがあること	49	45.8%
ガイドツアー、イベント、講演、その他の催し等が行われていること	44	41.1%
桜島・錦江湾ジオパークイベント「灰フェス！」	17	15.9%
桜島・錦江湾ジオパークWAON	7	6.5%
霧島ジオパークと統合を検討していること	24	22.4%
その他	1	0.9%
無回答	2	1.9%
合計	221	

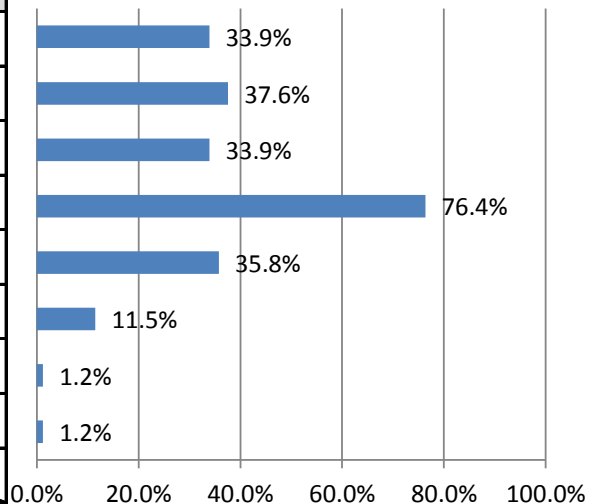


問7：その他の主な意見

- ・ソラシドエアーの機内紙にこの件で取材を受け、御案内している処と誌上にくわしく書いて送付した など

問8：桜島や錦江湾についてどんなことを知っていますか。（複数回答可）（N=165人）

選択肢	回答数	構成比
錦江湾奥（始良カルデラ）の成り立ち	56	33.9%
桜島の成り立ち	62	37.6%
桜島の噴火のしくみ	56	33.9%
桜島大正噴火	126	76.4%
シラス台地のでき方	59	35.8%
知らない	19	11.5%
その他	2	1.2%
無回答	2	1.2%
合計	382	

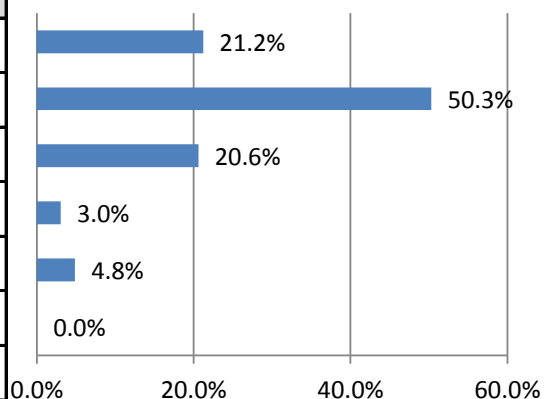


問8：その他の主な意見

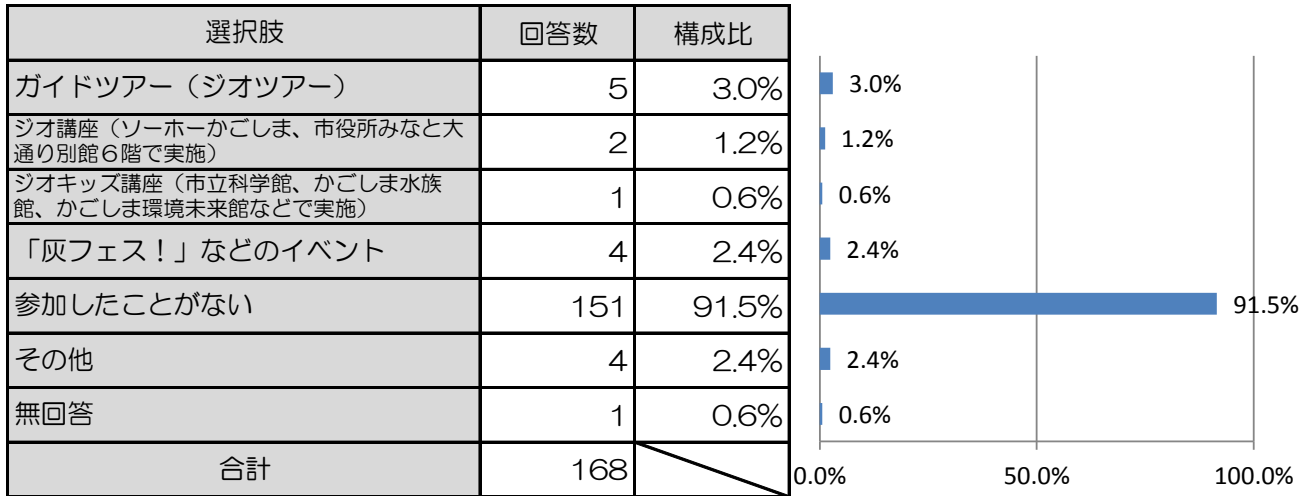
- ・今でも時々噴火していることだけ、言葉はどれも聞いたことはあるが、説明をとわれたら自信がない など

問9：「桜島・錦江湾ジオパーク」に興味はありますか。

選択肢	回答数	構成比
大変興味がある	35	21.2%
少し興味がある	83	50.3%
あまり興味がない	34	20.6%
全く興味がない	5	3.0%
よく分からない	8	4.8%
無回答	0	0.0%
合計	165	100.0%



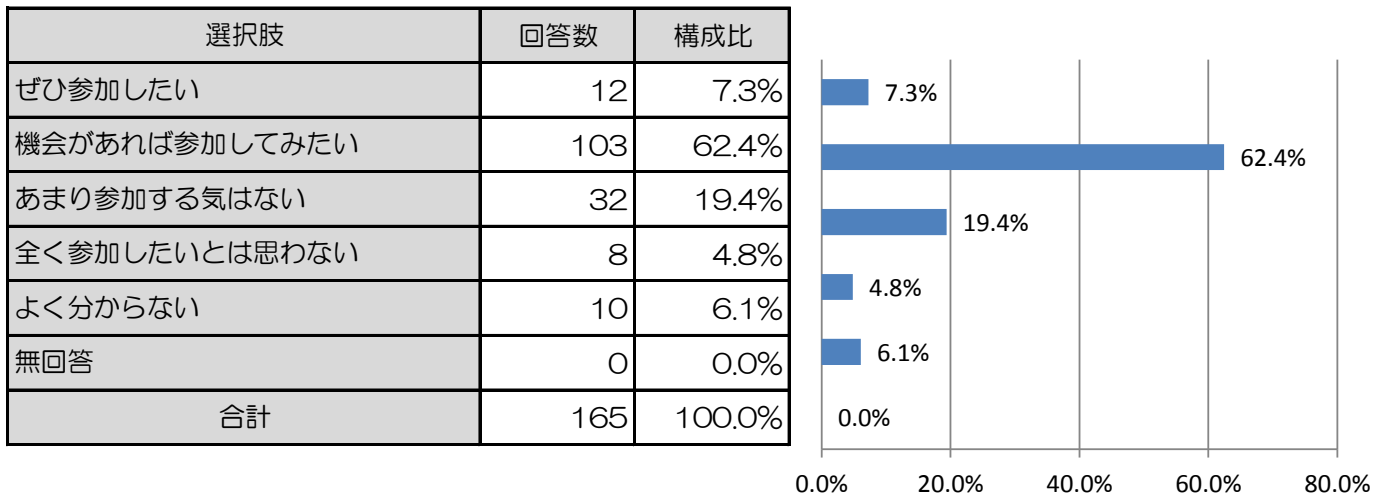
問10：「桜島・錦江湾ジオパーク」に関連するイベント、ガイドツアー、講演会、セミナーなどの「ジオパーク活動」に参加したことがありますか。（複数回答可）（N=165人）



問10：その他の主な意見

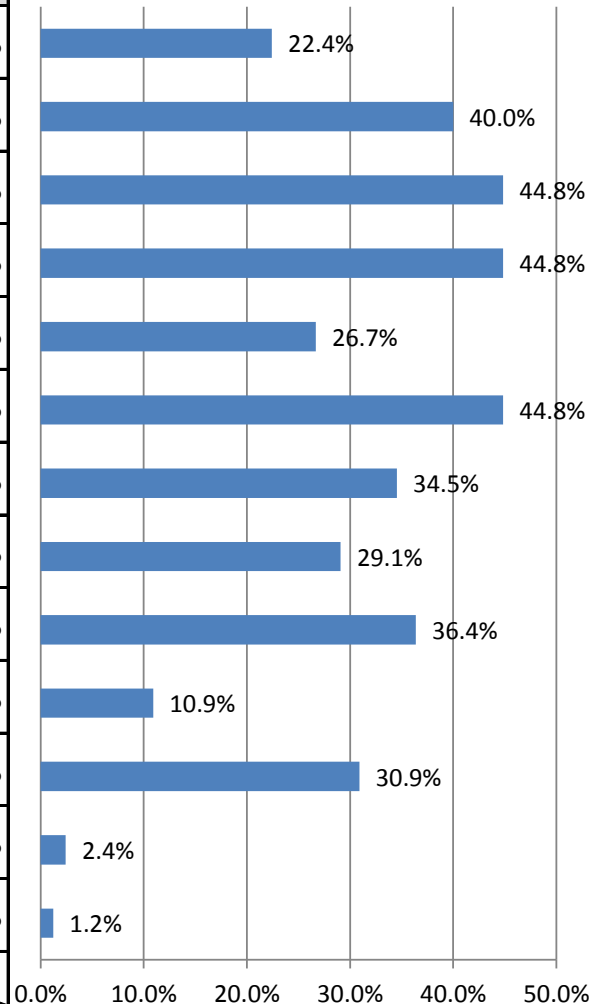
- ・写真コンクールを行う、地元の文化祭での講演会、参加したいと思います。
- ・ソーホーかごしま（市役所みなと大通り別館6階）以外の場所での講座・講演 など

問11：「桜島・錦江湾ジオパーク」に関連するイベント、ガイドツアー、講演会、セミナーなどの「ジオパーク活動」に参加したいと思いますか。



問12：「桜島・錦江湾ジオパーク」で体験したい、楽しみたいことは何ですか。（複数回答可）  
 (N=165人)

選択肢	回答数	構成比
噴火などの火山活動の体感	37	22.4%
溶岩・地形・地質・景観・景勝地などの自然景観観光	66	40.0%
溶岩・地形・地質・景観・景勝地などの自然景観観光	74	44.8%
温泉・足湯	74	44.8%
ガイドツアーへの参加（火山ガイドウォーク、温泉掘りツアーなど）	44	26.7%
フェリー、クルーズ観光	74	44.8%
体験プログラム（溶岩でピザ窯&ピザ作り、陶芸体験、収穫体験など）	57	34.5%
防災施設見学（砂防センターや砂防ダムなど）	48	29.1%
食・郷土料理	60	36.4%
地域の人との交流	18	10.9%
海に関する活動（釣り、カヤック、シュノーケリング体験など）	51	30.9%
その他	4	2.4%
無回答	2	1.2%
合計	609	

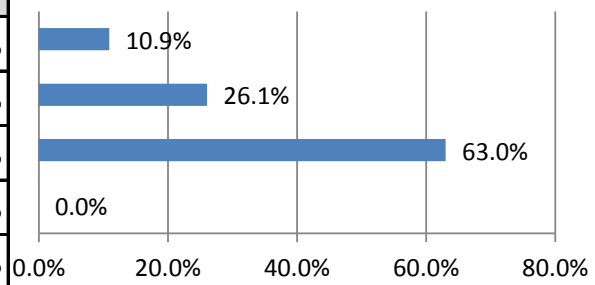


問12：その他の主な意見

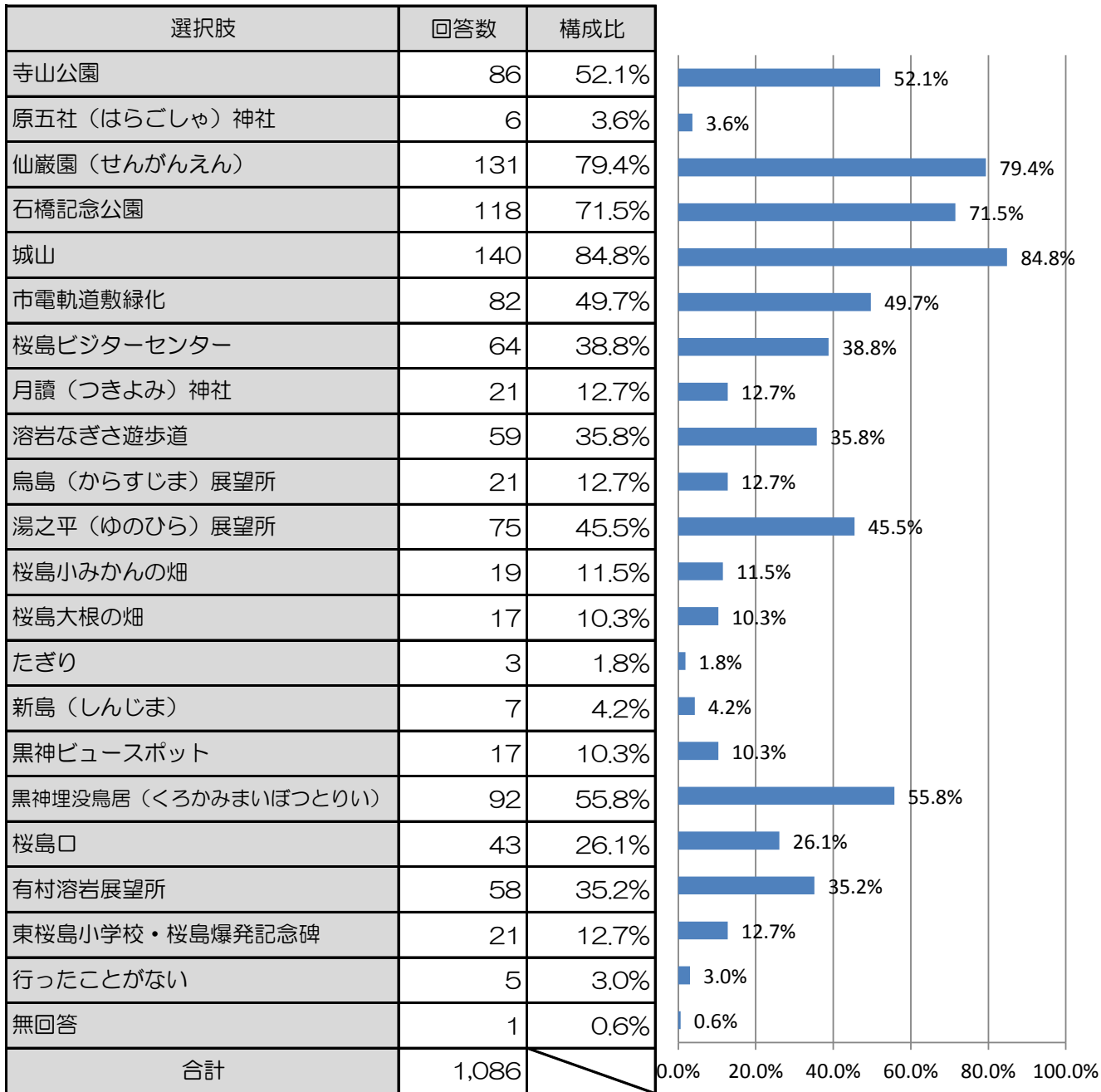
- ・ほとんど体験。「体験プログラム」くらいはしてもいいかな、コンクールやクイズ等
- ・興味をいただくだけの楽しみが感じとれない。 など

問13：「ジオサイト」（ジオパークの魅力を体験・体感できる場所）という言葉を知っていますか。

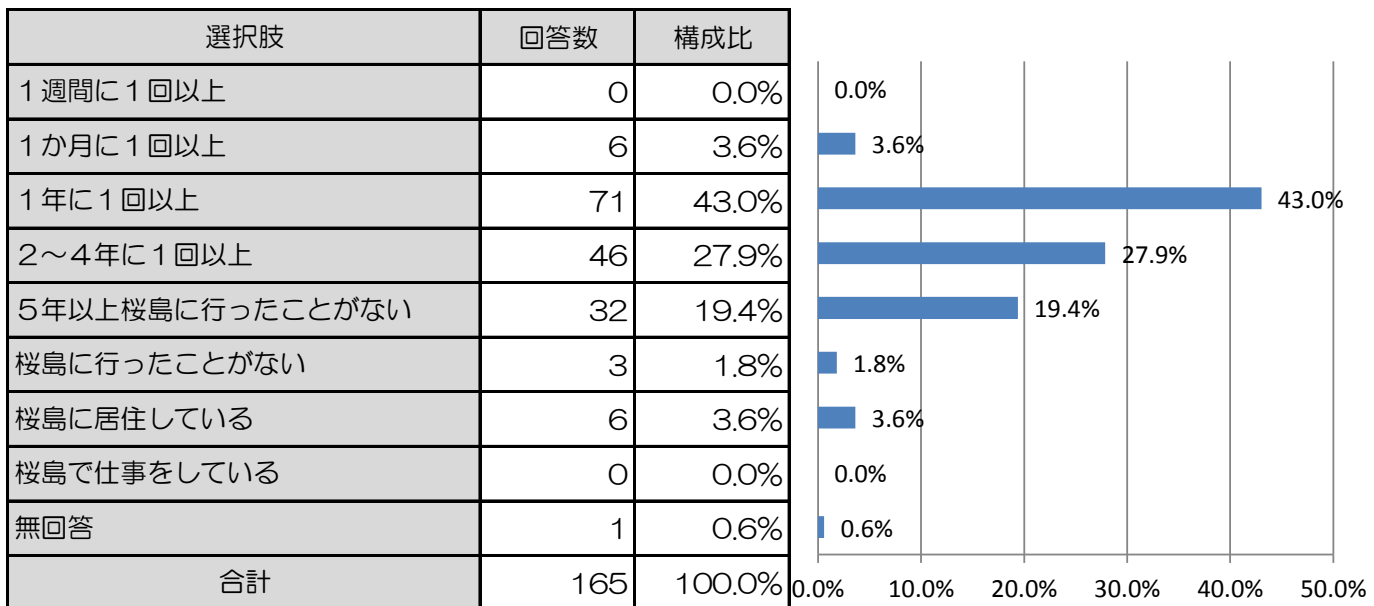
選択肢	回答数	構成比
知っている	18	10.9%
聞いたことはある	43	26.1%
知らない	104	63.0%
無回答	0	0.0%
合計	165	100.0%



問14：次の「ジオサイト」（ジオパークの魅力体験・体感できる場所）の中で行ったことのある場所はどこですか。（複数回答可）（N=165人）



問15：桜島に行く回数ほどのくらいですか。



問16：「桜島・錦江湾ジオパーク」について、どのようなことでも構いませんので、自由にご記入ください。

- 鹿児島は他県にはないほど魅力的な場所が沢山あるが、あまりパンフレットにひかれない。説明ばかりで実際に何が出来るのか具体性があるといいと思う。特にここでしかできない特別な事があれば体験したいと思うかもしれない。すごくもったいない。県民がもっと桜島や錦江湾に興味をもって知り、観光客の人に説明できて「いきたい！！」と思ってもらえるよう県民を対象にした県民割引などあれば県民も利用しやすいと思う。
- 観光客を誘致するにあたり市民が少しでも知識をもっていないと魅力を感じない。歴史もあり、偉人もたくさん出ているので勉強会を開いてほしい。遺跡等どこにあるのか、アクセス面もわかりやすく表示してほしい。こんな所にこんな人がいたんだと驚くことも少なくありません。案内もわかりやすくしてほしい。
- 市として、ジオパークを推進するということであれば、小・中学生の頃から、桜島の魅力を体験させてみては、いかがでしょうか。私達の頃は、そのような目的で学校行事（授業）で桜島に行ったことはなかったような…。
- 私は他県の出身ですが、活火山は大変魅力的なものです。鹿児島県民にとっては、当たり前前の存在、迷惑な火山灰かもしれませんが、観光客にとっては大変貴重な経験となります。現に観光に来たおいは、喜んで火山灰を持ち帰りました。当たり前前から価値を見出すことは難しいことですが、それが観光客にとっては非日常となるため、アイデアを沢山出してもらいたいです。
- ジオパークという言葉は耳にしていたが何だろうと思っていた。ジオパークに関するイベントもいつやっているのかわからない。ガイドマップが入っていたので、これを見て興味がわいた。ガイドマップはどこでもらえる？
- 桜島・錦江湾がジオパークに認定されていることを知った。子どもがまだ幼いが、今後体験活動をしていきたい。今は火山灰が降って洗濯や掃除が大変で困っているが、対応策や利用法（降灰袋はどこへ行くのか）を知りたい。

【ご連絡】

- ジオパークのガイドマップの配布場所は本市のホームページに記載しておりますので、ご覧ください。  
ホーム>環境・まちづくり>市民との協働・対話>  
市民との対話（わたしの提言、市政出前トーク等）>まちかどコメンテーター

【テーマ担当課（ジオパーク推進室）からのコメント】

ジオパークという言葉について、「知っている」、「聞いた（見た）ことはある」という方が、90.3%おり、鹿児島市でのジオパークの認知度は高いと思われる一方、桜島・錦江湾ジオパークについて「知っている」と回答された方は64.8%で、前回のアンケートから、1.1ポイント増加しているものの、まだまだ、広報周知に課題があることが分かりました。

桜島・錦江湾ジオパークを知ったきっかけとしては、「テレビ・ラジオ」、「新聞」の割合が高くなっており、マスメディアで取り上げてもらえるよう働きかけを行ってきた効果が表れている一方で、「ホームページ」や「SNS（フェイスブックやツイッター等）」の割合が低く、定期的に情報発信を行っていても、活用が十分になされていないことが分かりました。

また、ジオパーク活動について「参加したことがない」と回答された方が91.5%いる中で、活動に「参加してみたい」と回答された方は62.4%であったことから、潜在的に活動に参加したい方がおり、活動について、効果的な情報発信を行う必要があることが分かりました。

今回の調査結果を活用して、さらに市民の皆さまをはじめ、国内外の多くの方に世界に誇れる桜島・錦江湾のジオの魅力を発信してまいります。



## これからの消防団の地域における役割について

### 【調査の目的】

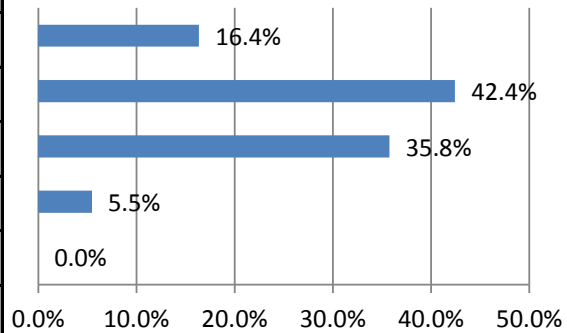
日本各地で大規模な自然災害が頻発するなか、本市においては、桜島の大規模噴火が近い将来起きる可能性があることが指摘されるなど、地域における防災体制のさらなる充実・強化が課題となっています。このようなことから、消防局では、消防団を中核とした地域防災力の充実強化を図るため、消防団の活性化に向けた取り組みを推進しているところです。

つきましては、皆さまが消防団に期待する活動や認知度などを把握し、消防団の活性化に向けた取り組みの参考とするためアンケートを実施しました。

### 【調査結果】

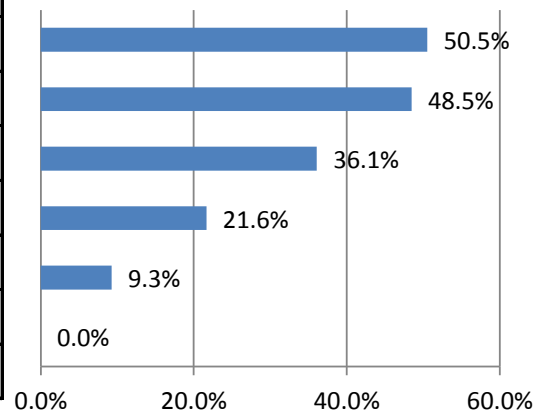
問17：消防団の存在をどの程度知っていますか。

選択肢	回答数	構成比
よく知っている	27	16.4%
知っている	70	42.4%
あまりよく知らない	59	35.8%
まったく知らない	9	5.5%
無回答	0	0.0%
合計	165	100.0%



問18：消防団の存在を知ったきっかけはなんですか。（複数回答可）（N=97人）

選択肢	回答数	構成比
家族、知人	49	50.5%
町内会、学校行事等の地域活動	47	48.5%
新聞、テレビ、ラジオ等の各種メディア	35	36.1%
消防のイベント	21	21.6%
その他	9	9.3%
無回答	0	0.0%
合計	161	

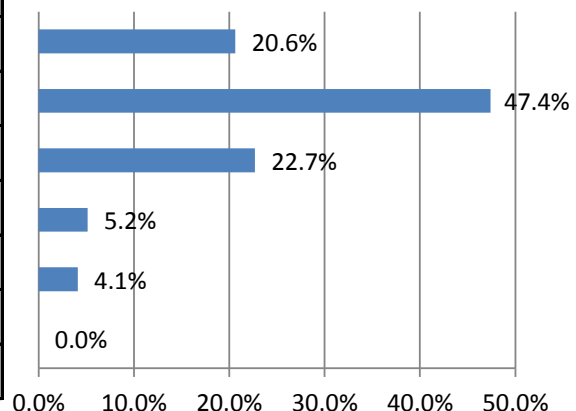


問18：その他の主な意見

- ・ 出納式、仕事を通じて、喜入基地消防訓練、出初式、消火訓練、救助訓練指導等、年末パトロール
- ・ 実際の消防、防災活動状況を見て知った、ポスター、小さいころから知っていた など

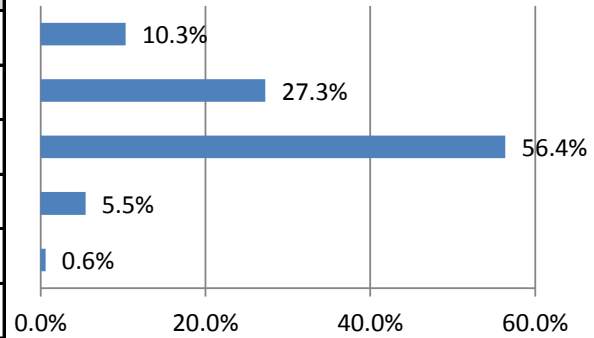
問19：地域の消防団に親近感を持っていますか。

選択肢	回答数	構成比
とても親近感を持っている	20	20.6%
ある程度親近感を持っている	46	47.4%
あまり親近感を持っていない	22	22.7%
まったく親近感を持っていない	5	5.2%
わからない	4	4.1%
無回答	0	0.0%
合計	97	100.0%



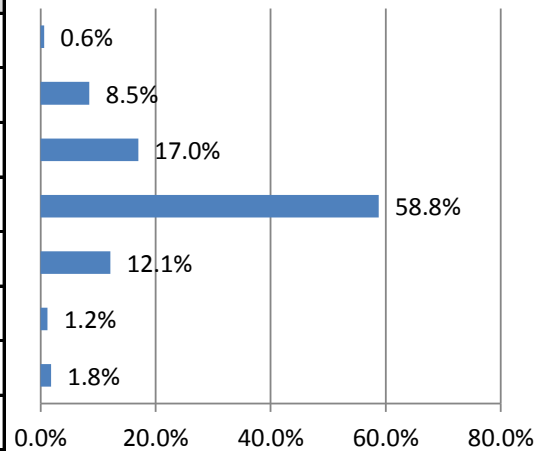
問20：消防団の活動内容を知っていますか。

選択肢	回答数	構成比
よく知っている	17	10.3%
知っている	45	27.3%
あまりよく知らない	93	56.4%
まったく知らない	9	5.5%
無回答	1	0.6%
合計	165	100.0%



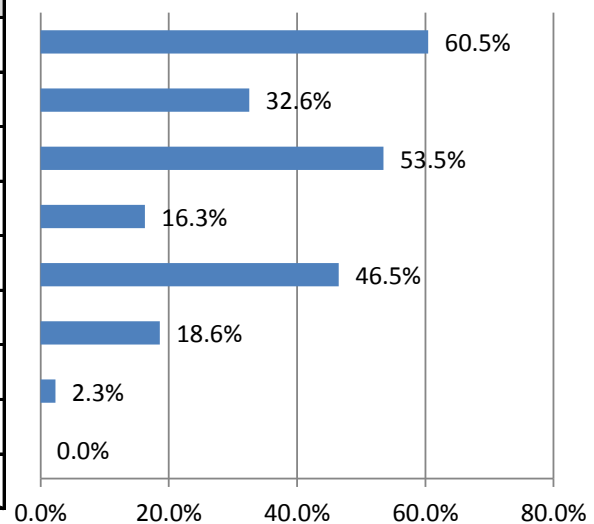
問21：消防団に入りたいと思いますか。

選択肢	回答数	構成比
ぜひ入りたい	1	0.6%
機会があれば入りたい	14	8.5%
お願いがあれば、入ってもよい	28	17.0%
あまり入りたくない	97	58.8%
絶対入りたくない	20	12.1%
入っている（入っていた）	2	1.2%
無回答	3	1.8%
合計	165	100.0%



問22：「入りたい」または「入ってもよい」理由についてお答えください。  
（複数回答可）（N=43人）

選択肢	回答数	構成比
地域に貢献できる	26	60.5%
消火、救助などの消防活動ができる	14	32.6%
訓練や研修を通して防災に関するスキルを身に 着けることができる	23	53.5%
友人、知人が消防団に入っている	7	16.3%
地域との繋がりを持つことができる	20	46.5%
年報酬（注1）、出動手当（注2）が支給される	8	18.6%
その他	1	2.3%
無回答	0	0.0%
合計	99	

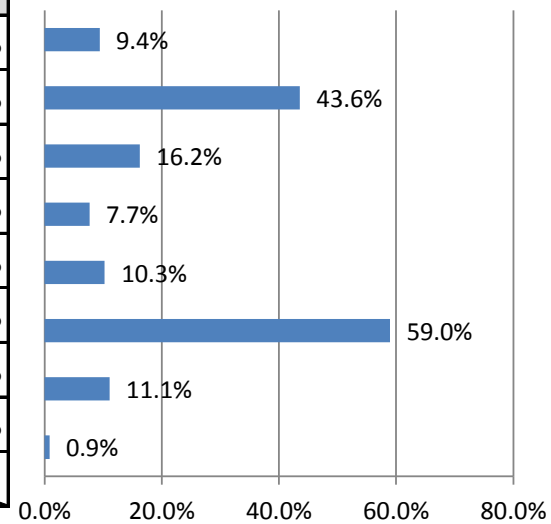


問22：その他の主な意見

- ・分からない など

問23：「入りたくない」理由についてお答えください。（複数回答可）（N=117人）

選択肢	回答数	構成比
消防団に魅力を感じない	11	9.4%
仕事との両立が難しい	51	43.6%
消防団活動は危険だから	19	16.2%
訓練がきつそうだから	9	7.7%
人間関係が煩わしいから	12	10.3%
年齢、体力に不安があるから	69	59.0%
その他	13	11.1%
無回答	1	0.9%
合計	185	

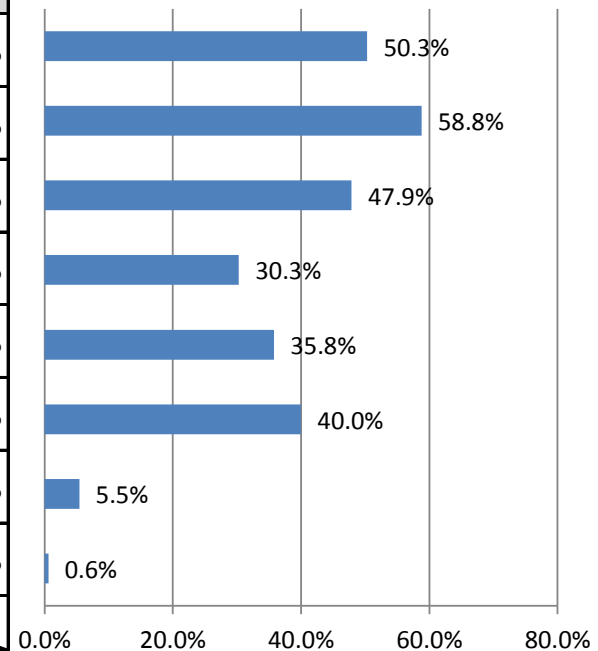


問23：その他の主な意見

- ・大切な役割を果たせるのかどうかを考えてしまって、子どもがいるため、家事との両立困難。
- ・親の介護中の為、他との調整が大変 など

問24：どのような取り組みが消防団員の確保につながると思うかお答えください。（複数回答可）（N=165人）

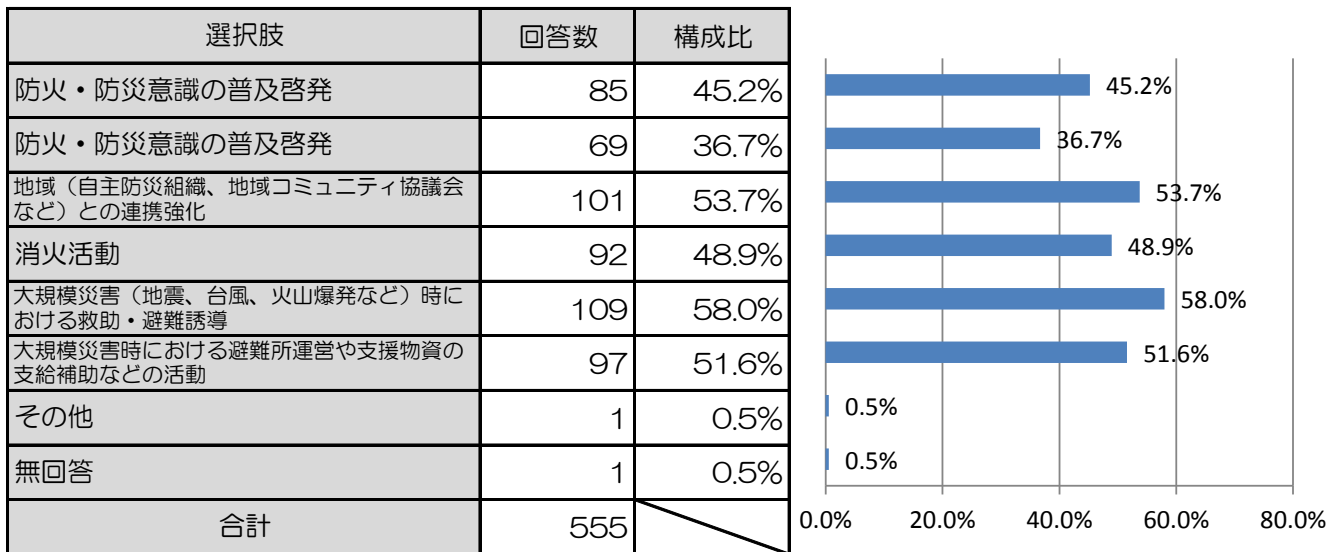
選択肢	回答数	構成比
消防団の魅力発信	83	50.3%
消防団員の処遇（年報酬、出動手当、制服のデザインなど）の改善	97	58.8%
大学生、専門学生などの若い世代の入団促進	79	47.9%
女性消防団員の入団促進	50	30.3%
町内会等の地域活動への参加	59	35.8%
消防団活動に対する事業所の理解	66	40.0%
その他	9	5.5%
無回答	1	0.6%
合計	444	



問24：その他の主な意見

- ・助ける側の立場にいるほこり感発信…、広報が足りない、会社の理解、活動を少なくする
- ・消防団の一日体験、講習 など

問25：消防団に期待する活動についてお答えください。（複数回答可）（N=165人）



問25：その他の主な意見

- 『大規模災害時における救助・避難誘導・避難所運営などの活動』は消防団では手に余ると思う。

問26：消防団員確保の方策や、みなさんが消防団に期待することなど、消防団に関することについて、どのようなことでも構いませんので、自由にご記入ください。

- 地域の消防団はどのような年齢層の人がどれくらい入団しているのか知らないで、これらを明確にした上で、もっと情報を発信してほしいです。
- 消防団は災害以外でも「大変だ」というイメージを、若い世代はもちろん、みなさん持たれていると思います。責任ある仕事であることはもちろんですが、そういうイメージを無くすことも団員確保につながるのかなとも思います。
- 消防団のTシャツを着ている人を見かけて、こんな組織があるんだなと思いました。地域の運動会でも見かけました。掲示物の他にも、こういう広報もありかなと思います。
- 消防団員の方々が、もっと、ほこりをもてるように、町内会、学校、公の活動の中で、団員の方を、構成メンバーに加える。（鹿児島のあらゆる生活活動が防災と関わっているので、メンバーとして意見を聴く価値がある。）→団員の存在感を高める。
- 子どもたちに消防士は人気があるのに比べ地味で、あまり認知度もないと思うので、「消防少年団」のようなものを創り、（現場には行かないが、防火防災学習は参加）若い人が参加する意欲を盛り上げたらどうかと思います。
- 家庭用の消火器で耐用年数が過ぎている物の処分に大変困っている人が多い。私もその一人で、近くの消防署で聞いてみたら、消火器を購入した店に持っていく以外に方法はないと言われましたが10年以上前で、どこで購入したか？記憶が曖昧で処分の方法がありません。出来れば、消防署で、処分費用を徴収して引き取る制度を作ってもらえれば有り難いです。
- よくラジオ（NHK-FM）を聴いてるので、地方案内の時に防災・防火のイベントがありますとか案内などがあるとわかりやすいと思う。また、梅雨の季節などにも大雨などの注意点とか教えてもらうといいと思います。毎年あった方が忘れてたりすることがあるので…

【テーマ担当課（消防局 警防課）からのコメント】

今回の調査では、消防団の存在について、「あまりよく知らない」・「まったく知らない」と回答された方が4割を超え、また、消防団の活動について、「あまりよく知らない」・「まったく知らない」と回答された方が6割を超えるなど、消防団について理解を深めてもらう必要があることが分かりました。一方で、市民の皆様から、消防団活動に関する多くの好意的な意見を頂いたほか、「地域との連携強化」や「大規模災害時における救助・避難誘導」などの活動に大きな期待を寄せられていることが分かりました。今回の調査結果を踏まえ、消防団についての理解をより深めていただくため、効果的な広報を実施していくとともに、市民の皆様への期待に応えられるよう、消防団の更なる充実強化に努めてまいりたいと考えております。

## 健康づくりパートナーの認知度について

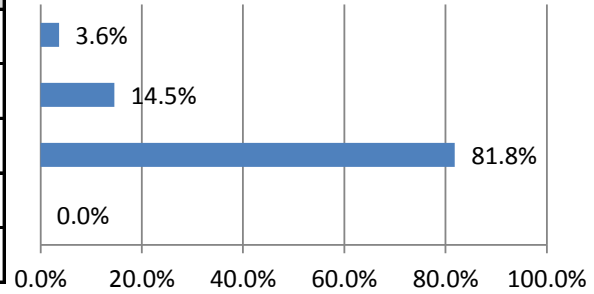
### 【調査の目的】

本市では、事業所との協働により、働く世代の健康づくりに取り組んでおり、その一環として、従業員と家族等の健康づくりに取り組む事業所を「健康づくりパートナー」として登録する制度を平成29年1月より開始しております。今回は、健康づくりパートナーの認知度を把握し、今後より多くの方への啓発ができるようアンケートを実施しました。

### 【調査結果】

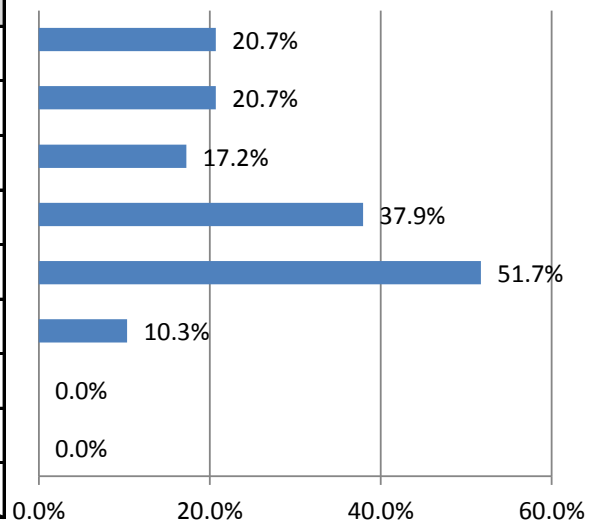
問27：「健康づくりパートナー」を知っていましたか。

選択肢	回答数	構成比
知っている	6	3.6%
聞いたことはある	24	14.5%
知らない	135	81.8%
無回答	0	0.0%
合計	165	100.0%



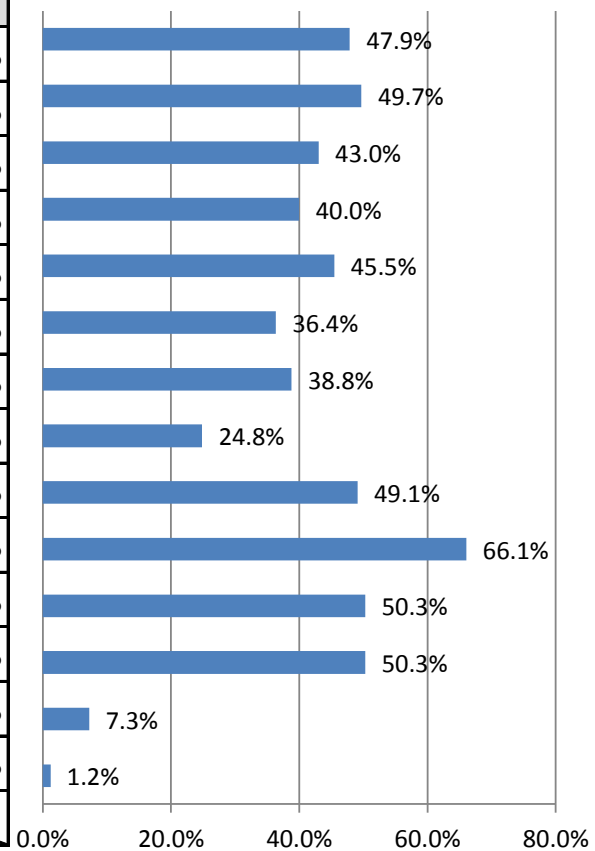
問28：「健康づくりパートナー」は、どこでお知りになりましたか。（複数回答可）（N=30人）

選択肢	回答数	構成比
職場	6	20.7%
健診機関	6	20.7%
保健所	5	17.2%
テレビ、ラジオ等	11	37.9%
市民のひろば等広報誌やポスター等	15	51.7%
家族、友人、知人	3	10.3%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	46	



問29：働く世代の人の健康づくりを広げるために「健康づくりパートナー」に登録するとよいと思う事業所はどこだと思いますか。（複数回答可）（N=165人）

選択肢	回答数	構成比
農業漁業ほか	79	47.9%
建設業	82	49.7%
製造業	71	43.0%
情報通信業	66	40.0%
運輸業	75	45.5%
卸売・小売業	60	36.4%
金融・保険業	64	38.8%
不動産業	41	24.8%
飲食店、宿泊業	81	49.1%
医療、福祉	109	66.1%
教育、学習支援業	83	50.3%
サービス業	83	50.3%
その他	12	7.3%
無回答	2	1.2%
合計	908	

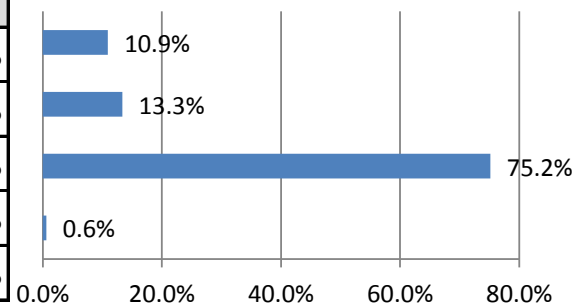


問29：その他の主な意見

- ・全職種、主婦、土木業、行政機関、福祉の整っていない小さな事業所、職種は関係ない
- ・よく分からないそもそも自己管理すべきこと不要！！ など

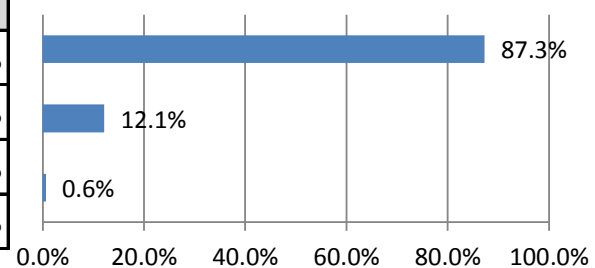
問30：「健康経営」という言葉を知っていますか。

選択肢	回答数	構成比
言葉も意味も知っている	18	10.9%
言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない	22	13.3%
知らない	124	75.2%
無回答	1	0.6%
合計	165	100.0%



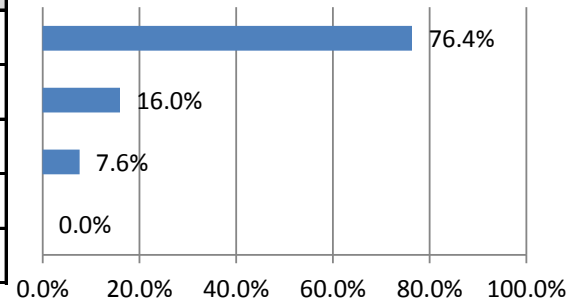
問31：職場健診や特定健診など、自分が受けることができる健康診断を知っていますか。

選択肢	回答数	構成比
知っている	144	87.3%
知らない	20	12.1%
無回答	1	0.6%
合計	165	100.0%



問32：健康診断を年1回受けていますか。（N=144人）

選択肢	回答数	構成比
毎年受診している	110	76.4%
時々受診している	23	16.0%
受診していない	11	7.6%
無回答	0	0.0%
合計	144	100.0%



問33：働く世代が健康づくりへの関心を高めていくためには、どのような方法が効果的だと思いますか。自由にご記入下さい。

- 鹿児島は、中小企業が多く、従業員の健康管理を十分に実施するには、経営面から大変なのではないだろうか。その点でも、健康セミナーや健康診断等への可能な範囲での行政支援等がいいのではないのでしょうか。従業員等が健康である事こそ、県・市町村の健康に結び付くと考えます。
- 健康づくりをしている場合と、していない場合での具体的なデータの比較等、映像等で身近な所（駅前や公共施設等）で知ることができれば意識が高まるのでは？
- 仕事をしている人は、健康より仕事を優先しがちだと思う。実際に周りの人に聞いても若い人は健康診断に行かないし、年配になると行く人が多いように思う。  
働いている人がもっと病院に行きやすいようにすべき。行きにくい理由として、
  - 予約がめんどう
  - 時間をとられる（待ち時間）etc…
 もっと楽だと健康に意識するかもしれない。
  - 優先的にみてもらえる
  - かんたんに予約できる
  - 行くと何か特典がもらえる（おちゃとか）etc…
 自分の体の状態がわかれば意識も高くなる気がする。
- 健康チェックする機会をたくさん作ることです。  
例えば、連休とか休日にイベントがある場所で気楽に健康チェックするコーナーがあるとよいと思う。  
身長、体重測定その他、血圧、体内脂肪、脈拍、等遊び心で知る機会を作り注意点などアドバイスする。
- 普段の生活では健康づくりを考えることがあまりありません。  
各種イベント・シンポジウムの開催等が効果的だと思います。
- 小規模の事業主に対し従業員の健康管理について行政側が訪問などして、検診の重大さを説明し、受診できる環境づくりを構築させる体制をつくるのが大事だと思う。

問34：健康づくりについて、みなさんが市や事業所に期待することなど、どのようなことでも構いませんので、自由にご記入ください。

- 年1回の検診は義務づけられているが、その後のフォローはメタボくらいしかない。もっと多様性があると思う。
- 市から発注される工事や業務の年間を通した平準化。
- ノー残業ディやプレミアムフライデー等の国が取り組んでいる働き方改革を柔軟に取り入れる。(国や県は、取り組もうと頑張っているけど、市が何かやっているのか見えてこない。)
- 海外では公園にジムにあるような器具があった。日本には子供が遊ぶようなものしかない。公園をもっと活用してスポーツしやすい環境をととのえるほうがいいと思う。鹿児島はスポーツできる所が少ない。有料ジムなどお金をかけてまで健康になろうと思う人は少ないから。
- 今は働いていないので分からないが、主人の会社では、禁煙プログラム等を行い、成功した方、それを応援・協力した方を表彰するというのがある。我が家は、タバコを吸わないので、あまり関係はないが、とても良いきっかけ作りなので、会社単位ではなく、市、県、国レベルで色々取り組めたら楽しくて、かつ健康的で良いと思う。
- 健康診断で疑問なのですが、以前病気をしているのに、特定健診は受けず、普通の検診を受けているのですが、(検査の項目が多いとかで)どのタイミングで特定検診をしたら良いか？自分で判断するのかなあ？と思っています。そんな人は多いかもしれません。
- 特定健診は、検査が網羅的でなく、必要な物がオプションであることが多い。何が必要かわからないこともあり、問診時に、本人に合った選択ができるように余裕を設けて欲しい。

#### 【テーマ担当課（保健政策課）からのコメント】

健康づくりパートナーという言葉を知らない方が、81.8%、健康経営という言葉を知らない方が、75.2%と働く世代に向けた健康づくりに関する認知度がまだまだ低く、広く市民の皆さんへ周知することが必要と考えます。また、健康づくりパートナーをどこでお知りになったかの問いでは、高い順に、市民の広場や広報誌、ポスター等(51.7%)、テレビ、ラジオ等(37.9%)、職場・健診機関(20.7%)となっており、この結果を踏まえて、働く世代を含めた市民の皆様へ広く認知されるよう、今後、周知・広報に努めてまいりたいと考えております。

また、自分が受けられる健康診断を知っている方が、87.3%、年1回健康診断を受けている方の割合は76.4%と高いですが、自分が受けられる健康診断を知らない方や年1回健康診断を受けていない方もおり、健康診断の必要性やどこで受けられる等の健康診断に関する情報提供等の必要性も感じました。今後、各部署、他機関等と連携を図り、情報提供に努めたいと考えます。

健康づくりに関する自由意見では、健康セミナーや、健康診断等への可能な範囲での行政支援や、小規模の事業主に対し、従業員の健康管理について説明等があればとのご意見をいただきました。健康づくりパートナー登録事業所には、保健師や栄養士等の相談等もやっているところがございますが、受診可能な健康診断や行政等が実施している健康づくりに関する支援の情報提供など、従業員の方の健康管理について関心が高まるよう、事業所に対する取組を進めたいと考えます。



問35：今回のテーマに限らず、鹿児島市政に対してご意見・ご提言があれば、自由にご記入ください。  
いただいたご意見・ご提言は速やかに所管部局に伝えて、市政運営の参考とさせていただきます。

- 大型ゴミの回収をお願いしました。  
「大型ゴミのシールに名前を書いて指定場所に出して下さい。」と言われました。ゴミに名前を書くというのは大変抵抗があり、それを伝えると「イニシャルだけでも良い」とのこと。以前（1、2年くらい前）もサンサンコールの方には改善を…と市民の声として伝えたのですが、今回、以前と同様にがっかり。他県に住んでいましたが、あちらは、3ケタの数字の記入でした。普段のゴミも間違えて出す人が時々います。[ルール違反!!]とだけのシールで、これも伝えました。他県では、これは〇〇ゴミです・〇〇曜日の回収です。と印刷された紙に担当の方が〇〇ごみ・〇〇曜日と記入して貼ってます。
- 車以外の公共交通機関が本数など少ない。もっと市電通りを活性化させてほしい。一番つかうのが市電なので、通り沿いにあると活用しやすい。
- 公園はきれいだけど活用されているのか不明。人がいつも少ない。公園の活用の仕方を避難所以外にもっと良くしたほうがいいと思う。公園はやたら多いと思うので。
- 病院がわかりにくい。沢山あって何が何かネットで調べるのもわかりにくい。一覧があるといい。（各科などで、地区によってなど）暮らしのガイドは少ないと思う。
- 来年は維新150年なので、観光客が多くなるかもしれないので友人とも話し合って、鹿児島を案内できるようにしよう、と思っています。他の人も、興味があるようだったので、説明が出来るようになるように、セミナーみたいな観光パスとかあったら参加したいと思います。他県の方に説明出来ずにはずかしいので。
- 市が多方面にわたって細やかな施策をしていること、パンフレット、市勢要覧を通して知ることが出来た。もっと広く知らしめてほしい。
- スポーツ誘致についてプロ野球は宮崎に比べてあまりに差があります。サッカーもいいですけど（プロ野球でいえば3軍）プロ野球の2軍でもいいですから、誘致できるようにお願いします。
- 道路等で危険な場所を修理したり、ミラー等の設置依頼する部署を教えてください。近所で子供の通学で危ない場所があります。

【ご連絡】

道路によって連絡する場所が異なります。

市道の場合 ⇒ ※道路の修理など  
鹿児島市役所 道路維持課  
〒892-8677 鹿児島市山下町11-1 （東別館6階）  
Tel099-216-1410  
※ミラーの設置など  
鹿児島市役所 道路建設課  
〒892-8677 鹿児島市山下町11-1 （東別館5階）  
Tel099-216-1404

県道の場合 ⇒ 鹿児島県庁 道路維持課  
〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10番1号 （行政庁舎14階）  
Tel099-286-3564

国道の場合 ⇒ 鹿児島国道事務所  
〒892-0812 鹿児島市浜町2番5号  
Tel099-216-3111